技報第 20 号

巻頭言

技術とともに歩む

代表取締役　社長執行役員
森　拓也

モノづくりを生業とする企業にとって，確かな技術力を有していることは必須の条件である．建設業も同様であり，多くの会社がそのホームページ等で技術力の高さを強調している．では，“技術力”とはいったいどういう力なのだろうか．そこには，二つの要素があると考えている．

まず一つは，確実な仕事をやり続ける力である．普通の仕事を普通にやり遂げる力であり，特別なことではない．野球で言えば，エラーしないプレイである．ファインプレイをする選手であったとしても，頻繁にエラーするようでは監督の信頼は得られない．建設業においても同様に，期待通りの仕事を確実に実行することが，施主の信頼に繋がるものと言える．ただし，これを常にやり遂げる事は，実は容易なことではない．“凡事徹底”の難しさである．特に建設業においては，対象となる建造物は単品生産であり，毎回変わる．さらに作業環境，条件も工事ごとに異なっている．そのような中で安定した品質を確保し，工期を守り，さらには事故なく工事を完成させるためには，工事のプロフェッショナルとしての高い技量が求められる．マニュアルは有用だが，それだけでは不十分である．様々なケースに対応するためには，基本的な知識をしっかり身に付けた上での応用力が必要なのである．さらに，技術は常に進歩している．旧態然としたやり方に固執するようでは，施主の信頼に応えることはできない．常に新しい技術に対する感度を持ち，それらをうまく取り入れる進取の精神も必要である．

もう一つの要素は，技術開発する力である．当社の前身であるピー・エス・コンクリート㈱は，70 年前にわが国初の PC 橋を建設した．桁長わずか 3.8m の長生橋（石川県七尾市）である．以来，わが国の PC 技術のリーディングカンパニーとして，大規模橋梁を可能とし，橋梁以外の分野への適用拡大も実現してきた．新しい技術への挑戦は，創業以来の当社の

アイデンティティーとも言える．近年，建設業に対する社会的ニーズも変化してきているが，このような新しいニーズに応える新技術を実用化することが，ピーエス三菱の使命でもある．一般に，技術的なイノベーションには三つの障壁があるといわれている．いわく，悪魔の川（Devil River），死の谷（Valley of Death），ダーウィンの海（Darwinian Sea）である．詳細については，ネットで容易に知ることができるので説明は省略するが，これらのすべてを乗り越えたものだけが価値ある新技術となりうる．失敗を恐れていては新技術の開発は実現されない．多くの障壁を乗り越えるには，豊富な知識や経験だけではなく，技術者の勇気，情熱もまた求められるのだ．

このような二つの要素を兼ね備えてこそ，“技術力の高い会社”と評価されるのだと思う．そのためには，経験や知識はもちろん必要だが，何よりもまず技術者が技術に興味を持ち，前向きに取り組むことが欠かせない．“好きは努力に勝る”である．やらされてやる仕事と自ら前向きに取り組んだ仕事とでは，その差は歴然である．このような取り組みが，当たり前のように日々行われる会社であることが，当社の技術力をさらに高める原動力になると確信している．

さて，株式会社ピーエス三菱発足の初年度から発刊を開始した本誌“技報”も，20 周年の記念号を迎えることとなった．この間，厳しい事業環境の時代においても絶えることなく当社の技術の軌跡を発信してきた取り組みに心から感謝したい．

この“技報”は，当社の社員が取り組んだ技術の記録であり，ピーエス三菱の無形の財産ともいえる．ぜひ，ページを開いてもらいたいと思う．ぼんやりと眺めるように読むところから始めてもらえればよい．そして，興味がある内容であれば，じっくり読んでもらいたい．当社社員の技術に対する情熱の一端を感じることができるはずである．ピーエス三菱は，技術とともに歩む会社であり続けたい，心からそう願っている．

2022 年 8 月